

分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：6名（正会員4名、個人会員2名）

会 員：上條 庸子（女子栄養大学） 鈴木 学（日本女子大学）
藤倉 恵一（文教大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）

以上正会員

小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化女子大学）

以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：10回（合宿1回含む）

延べ参加者数：53名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は、前期後半の研究を継承し、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の日本十進分類法（NDC）新訂 10 版の試案について検証と評価、および必要な提言をすることをメインテーマとする。また、そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間で(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3 つの期間に分けて活動する。

2. 1) 第 1 期 ネットワーク時代の分類のありよう

第 1 期の活動として、以下の文献の精読を行った（2010 年 5 月～2010 年 9 月）。

- ・ ユニコードとセマンティックウェブの基礎知識 国立国会図書館月報 564, p.18-21 2008.3
- ・ 渡邊隆弘 セマンティック Web と資料組織法--概念体系管理の今後 図書館界 58(2), p.100-107 2006.7
- ・ 永森光晴, 杉本重雄 国会図書館件名標目表（NDLSH）の SKOS 化とそのグラフィカルブラウザの作成 情報処理学会研究報告 2006（118）, p.11-19 2006.11
- ・ Lee Feigenbaum（ほか） 離陸するセマンティックウェブ 日経サイエンス 38(5), p.76-85 2008.4
- ・ インターネットはいかに知の秩序を変えるか？ / デビッド・ワインバーガー著；柏野零訳 エナジクス, 2008, 344p.

特に序盤は「セマンティック Web」をキーワードとして既存の索引言語（分類や件名標目表）と検索精度への影響などについて概略をつかみ、続いて「分類」の役割から現状・将来に至るまでの概説をもとに検討した。

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第1期に関連して「図書分類の基礎とサービス実務への応用を学ぶ」をテーマとして以下の文献の精読を行った。

- ・ レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙 / 愛知淑徳大学図書館編, 鹿島みづき著 勉誠出版, 2009, 203p.

2. 3) 第2期 日本十進分類法試案の検証

第2期の活動として、前期からの継続課題である「日本十進分類法新訂10版試案の概要」の検討を行う。

しかし、前期以降現時点まで公開されている試案は1つのみであるため、当面の課題として9版本表編巻頭にある「解説」について精読し、その問題点を確認することとした。

9版「解説」は、8版当時の「序説」に比べるとページ数が大幅に増え、またNDC自体のマニュアル的要素を多分に含んでいることからおおむね好意的評価をされているが、その内容に言及し批評した文献はほとんどない。

そのため、まだ公表されていない10版の「解説」に相当する部分についてあらかじめ分類委員会に意見をしておくことは意義があるという判断から、検討に着手した。

2. 4) 会場記録

2010年 4月23日(金) 文教大学(越谷)
5月14日(金) 女子栄養大学
6月18日(金) 日本女子大学(目白)
7月16日(金) 清泉女子大学
9月8日(水)～10日(金) 伊東園ホテル(静岡県伊東市)
9月24日(金) 文教大学(越谷)
10月15日(金) 清泉女子大学
11月19日(金) 日本女子大学(西生田)
12月17日(金) 女子栄養大学(駒込)
2011年 2月18日(金) 文教大学(越谷)
3月18日(金) 臨時休会

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2010(第20回整理技術・情報管理等研究集会)の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ(現・情報組織化研究グループ)により始められたTP&Dフォーラムは、第2回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2010年度は京都で開催され、分科会からは藤倉・鈴木の2名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2011年度は8月19・20日に関東にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より、分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお、第 2 期の活動の中心となる NDC 試案に対する批評については、編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表する予定である。

ウ. その他

2010 年度第 10 回例会（2011 年 3 月 18 日開催予定）は、同 11 日に発生した地震災害およびその後の計画停電による影響を考慮して、やむを得ず臨時休会とした。

（文責・藤倉恵一）